

日本原子力学会2022年春の年会標準委員会企画セッション

# 規格基準類における役割と関係の整理

—リスク情報の活用に向けた組織間の連携—

## 本セッションの目的と論点

2022年3月17日

座長 山本章夫（名古屋大）

# 背景

- 2021年秋の大会の標準委員会企画セッション及び2021年10月の日本電気協会シンポジウムで議論のあった「規制基準、学協会規格、民間ガイドの関係と分担」では、規格・標準の策定にあたり、あるべき関係組織の連携について具体的な議論に入る必要性が明らかになった。
- 内的/外的事象、事故シナリオの評価、防止・影響緩和のための対策（設計、判断等）には「不確定性」が含まれる。その対応の考え方は設計、運転、評価などで整合すべきであり、リスク情報を活用した統合的意思決定（IRIDM）により俯瞰的な判断を行う必要がある。
- この「リスク情報活用の取組」は、深さの違いはあるものの、多くの規格・標準が関与するものである。
- いくつかの規格・標準でリスク情報を活用する取組が進んでいるが、規格・基準間の整合性を十分考慮するまでには至っていない。

# 目的

- 本セッションでは、規制基準、学協会規格及び民間ガイドにおける関係機関の役割について整理するとともに、具体的な規格・標準の整備につなげていくために必要な取組について、関係者の共通理解の醸成を目的とする。
- そのために、日本電気協会、日本機械学会、さらに規制組織及び事業者代表としてのATENAを交えて、論点整理を行う。
- 整理された論点を、今後の各組織の取組につなげる。

# プログラム

2022年3月17日(木)  
13:00~14:30

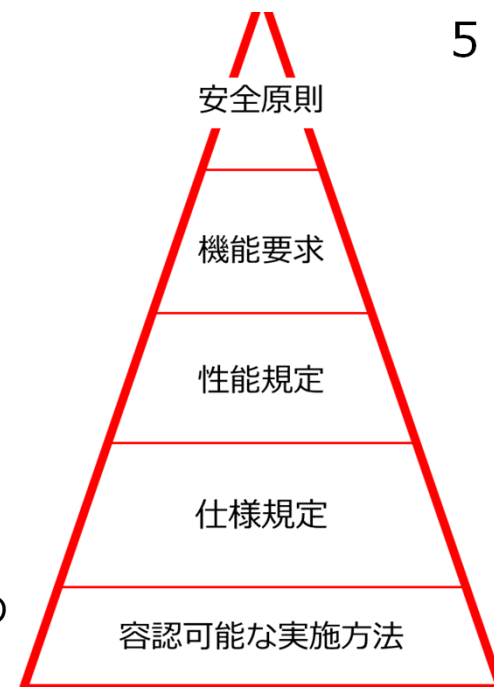
4

- (1) 規制基準、民間ガイドとの関係における標準の役割  
(標準委員会) 成宮 祥介
- (2) 学協会規格の体系における電気協会の取組  
(東大) 阿部 弘亨
- (3) 学協会とステークホルダーの連携事例  
(東大) 村上 健太
- (4) 今後の具体的な取組に関する討論  
司会 (名大) 山本 章夫  
(標準委員会) 成宮 祥介、(東大) 阿部 弘亨  
(東大) 村上 健太、(東芝ESS) 松永 圭司  
(規制庁) 佐々木 晴子、(ATENA) 山中 康慎

# 議論のポイント

- 規格基準類の関係と組織間の連携
  - リスク情報活用を中心として
  - ✓ 学協会規格、民間ガイドライン、規制基準類
  - ✓ 縦の関係と横の関係、相補的關係
  
- 今後の取組の方向性
  - ✓ 学協会規格類協議会の活用
  - ✓ 具体的な規格標準の整備で解決すべき課題

安全要求の  
階層構造



IAEA 安全基準  
ホイールチャート

